

2023年（令和五年）

5月26日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カシドキ10階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>**■ 概況**

5/11～5/17のNYMEX・WTI先物市場は70.04～72.83ドルの範囲で推移した。

5月18日は、米国の堅調な経済指標や金融当局者の発言による利上げ継続観測で、経済減速懸念が高まり、反落した。ただ、政府の債務上限問題解決の楽観的見通しが相場を下支えした模様。6月物終値は前日比0.97ドル安の71.86ドル。

週末19日は、米国政府の債務上限問題をめぐる債務不履行（デフォルト）不安の再燃で、続落した。米国株式の低下も値下がり要因。6月物終値は0.31ドル安の71.55ドル。

週明け22日は、5月からのOPECプラス主要国による追加減産実施と6月からの米国のドライブシーズン到来期待による先行き石油需給ひつ迫観測から、3営業日ぶりに反発した。6月物終値は0.44ドル高の71.99ドル。

23日は、サウジのア卜ドアルアジズ・エネルギー相の投機筋に対する空売りへの警告発言や来月4日のOPECプラス会合における追加減産観測から、続伸した。29日のメモリアルデーから本格化する米国のドライブシーズンの需要増加期待も上昇要因。この日から取引の中心限月となった7月物終値は、前日比0.86ドル高の72.91ドル。

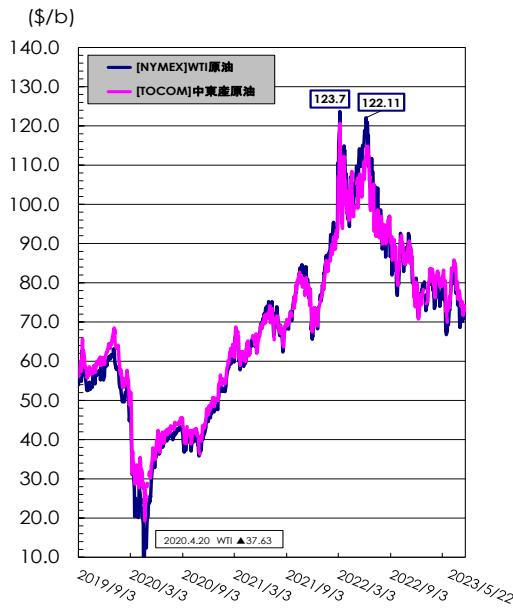
24日は、米国の原油在庫とガソリン在庫の減少報告を契機に、ドライブシーズンの需要増加期待が膨らみ、また、前日のサウジ・エネルギー相発言がOPECプラスの追加減産を示唆するものと受け止められ、3日続伸した。7月物終値は、前日比1.43ドル高の74.34ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（7月度）は、5月11日～5月17日の間、73.30～76.20ドルの範囲で推移した。5月18日75.70ドル、19日75.80ドル、22日73.70ドル、23日75.30ドル、24日76.60ドルで推移した。

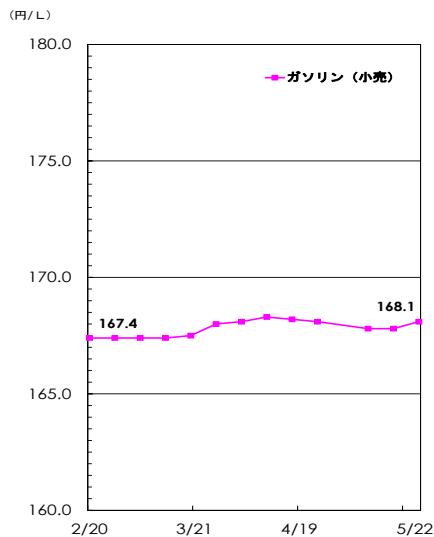
対ドル為替レート（TTM）は、5月11日～17日の間、134.18～136.49円の範囲で推移した。5月18日137.62円、19日138.41円、22日137.72円、23日138.48円、24日138.63円で推移した。

そのような中で、5月22日時点の価格は、ガソリンが前週比0.3円の値上がり、軽油は同0.2円の値上がり、灯油は同4円の値上がり（18リットルベース）であった。ガソリンは5週ぶりの値上がり、軽油も5週ぶりの値上がり、灯油も5週ぶりの値下がりとなった。ガソリンの全国平均価格は168.1円であった。また、次週も燃料油価格激変緩和対策が発動され、補助金の支給額は11.1円となつた。

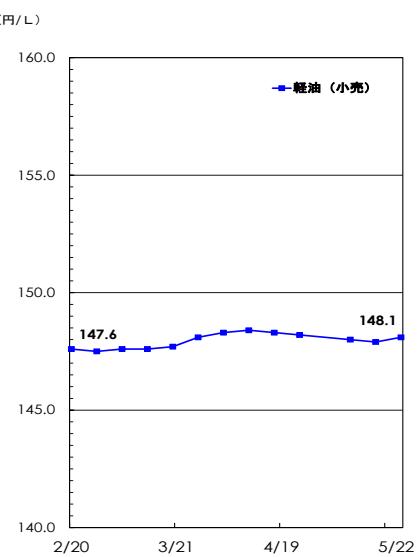
原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千㎘)	5/14～5/20	2,470	▼ -456	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	66.6	▼ -12.3	▼ -
	原油在庫量 (千㎘)	5/20	11,080	▲ 214	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	5/22	73.19	▲ 1.57	▼ -30.7
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	5/22	71.99	▲ 0.88	▼ -38.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月下旬	83.29	▲ 0.24	▼ -24.89
	①原油CIF単価 (¥/㎘)	"	69,672	▲ 799	▼ -13,895
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	132.99	▼ -1.14	▼ -10.18
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/22	138.72	▼ -1.67	▼ -9.94



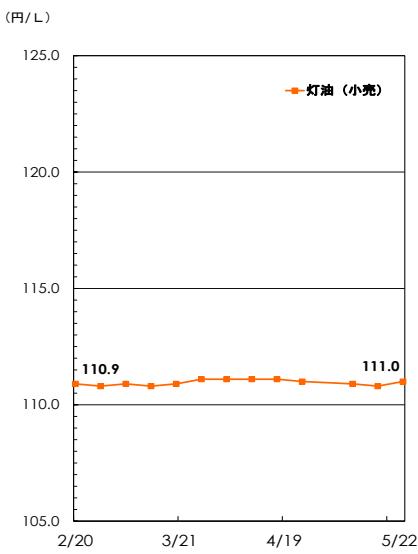
ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	生産	5/14 ~ 5/20	831	▼ -39	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	787	▲ 3	▲ -
	輸出	"	0	▼ -23	▼ -
	在庫	5/20	1,729	▲ 44	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/16 ~ 5/22	75.3	▲ 2.0	▲ 3.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	5/16 ~ 5/22	73.0	► 0.0	▼ -0.1
	(TOCOM/中部)	5/22	76.5	▲ 3.0	▲ 3.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/22	168.1	▲ 0.3	▼ -0.7
	※業転、先物価格は税抜き価格				



軽油		今週		前週比	前年比
需給	生産	5/14 ~ 5/20	619	▼ -92	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	648	▲ 25	▲ -
	輸出	"	70	▲ 22	▼ -
	在庫	5/20	1,431	▼ -98	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/16 ~ 5/22	75.2	▲ 1.7	▲ 3.0
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	5/16 ~ 5/22	77.5	▲ 0.9	▼ -11.1
	(TOCOM/中部)	5/22	-	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/22	148.1	▲ 0.2	▼ -0.7
	※業転、先物価格は税抜き価格				



灯油		今週		前週比	前年比
需給	生産	5/14 ~ 5/20	50	▼ -56	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	94	▲ 42	▲ -
	輸出	"	7	▲ 7	▼ -
	在庫	5/20	1,356	▼ -50	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/16 ~ 5/22	75.4	▲ 1.7	▲ 3.6
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	5/16 ~ 5/22	75.0	► 0.0	▲ 0.9
	(TOCOM/中部)	5/22	76.0	▲ 1.2	▲ 2.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/22	111.0	▲ 0.2	▼ -0.6
	※業転、先物価格は税抜き価格				



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(5月18日～24日)のWTI石油先物市場は、18日の71.86ドルで始り、米国の利上げ継続観測・政府の債務上限問題を主な要因として続落、71.55ドルに沈んだが、週明けは、サウジ・エネルギー相発言、OPECプラスの減産観測・米国 のドライブシーズン入り期待を主な要因に3日続伸し、24日は74.34ドルで終わった。

5月24日発表の19日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計によると、原油在庫は前週比1,250万バレル減と、市場予想(80万バレル増)に反する取り崩し、ガソリン在庫も210万バレル減と市場予想(110万バレル減)を上回る取り崩しだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年5月14日～5月20日に休止したトッパー能力は69.7万バレル/日で、前週に対して36.5万バレル/日増加した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は247.0万kLと、前週に比べ45.6万kL減少。前年に対しては42.6万kLの減少。トッパー稼働率は66.6%と前週に対して12.3ポイントの減少、前年に対しては8.7ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェットが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/4.5%減、ジェット/6.1%増、灯油/52.6%減、軽油/13.0%減、A重油/7.8%減、C重油/10.8%減。今週のC重油の輸入は0.6万kL(前週比0.6万kL増)。軽油の輸出は7.0万kL(前週比2.2万kL増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリン、灯油、軽油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではA重油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は78.7万kL(対前週0.4%増)と2週振りに増加した。ジェット9.5万kL(対前週21.9%減)、灯油9.4万kL(対前週81.0%増)、軽

EIAによると、5月22日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.2セント値下がりの1ガロン3.534ドル(129.9円/㍑)と2週ぶりの値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比1.4セント値下がりの1ガロン3.883ドル(142.1円/㍑)と5週連続の値下がり。

ペーカーヒューズ社によると、5月19日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比11基減の575基と3週連続の減少。

油64.8万kL(対前週3.9%増)、A重油17.5万kL(対前週17.5%減)、C重油18.2万kL(対前週5.2%減)。

(単位:千kL)

	今週 (5/14 ~ 5/20)	前週 (5/7 ~ 5/13)	前週比
ガソリン	787	784	▲ 3 (0%)
ジェット燃料	95	122	▼ -27 (-22%)
灯油	94	52	▲ 42 (81%)
軽油	648	623	▲ 25 (4%)
A重油	175	212	▼ -37 (-17%)
C重油	182	192	▼ -10 (-5%)
合 計	1,981	1,985	▼ -4 (-0%)

※今週出荷量 = (前週末在庫+今週生産+今週輸入) - (今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月20日時点の在庫はガソリン、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、灯油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは172.9万kL、前週差4.4万kL増。前年に対しては10.0万kL多い。

灯油は135.6万kL、前週差5.0万kL減。前年に対しては2.9万kL多い。

軽油は143.1万kL、前週差9.8万kL減。前年に対しては18.5万kL少ない。

A重油は71.3万kL、前週差0.1万kL減。前年に対しては0.6万kL少ない。

C重油は195.8万kL、前週差0.4万kL増。前年に対しては18.8万kL多い。

(単位:千kL)

	今週 (5/20)	前週 (5/13)	前週比
ガソリン	1,729	1,685	▲ 44 (3%)
ジェット燃料	807	826	▼ -19 (-2%)
灯油	1,356	1,406	▼ -50 (-4%)
軽油	1,431	1,529	▼ -98 (-6%)
A重油	713	714	▼ -1 (-0%)
C重油	1,958	1,954	▲ 4 (0%)
合 計	7,994	8,114	▼ -120 (-1.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月16日～22日のドル建て中東原油価格は値下がりしたが、為替レートは大きく円安で、元売会社の円建て原油コストは、0.5円値上がりしたものと見られる。

上記コストに先週の補助金額10.5円を加え、今週の補助金11.1円を差し引いた、5/25～5/31の実質的な元売会社の卸価格は0.1円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

5月16日～22日の製品スポット市況は、5月9日～5月15日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物取引の横ばいを除き、その他の取引・油種で値下がりした。

直近週(5/16～5/22)の陸上スポット価格平均値は、前週(5/9～5/15)比で、ガソリンは2.0円の値上がり、灯油は1.7円の値上がり、軽油は1.7円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(5/16～5/22)に、前週(5/9～5/15)比で、ガソリンは1.9円の値上がり、灯油は0.6円の値上がり、軽油は1.4円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は0.9円の値上がりだった。

		(単位:円/㍑)		
[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (5/16～5/22)	前週 (5/9～5/15)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	75.3	73.3	▲ 2.0
	灯油	75.4	73.7	▲ 1.7
	軽油	75.2	73.5	▲ 1.7
(TOCOM)		(単位:円/㍑)		
[期近物/終値 [平均]]		今週 (5/16～5/22)	前週 (5/9～5/15)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	73.0	73.0	➡ 0.0
	灯油	75.0	75.0	➡ 0.0
	軽油	77.5	76.6	▲ 0.9

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/16～5/22実績値) (単位:円/㍑)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 2.0	➡ 0.0	▲ 1.0
灯油	▲ 1.7	➡ 0.0	▲ 0.8
軽油	▲ 1.7	▲ 0.9	▲ 1.3
A重油	▲ 1.8		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

5月22日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円高の168.1円、軽油も0.2円高の148.1円、灯油も18.1円ベースで4円高の1,998円(18.1円ベースでは0.2円高の111.0円)。ガソリンは5週ぶりの値上がり、軽油も5週ぶりの値上がり、灯油も5週ぶりの値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは29道県、横ばいは7県、値下がりは11都府県だった。全国最安値は岡山県の162.4円、その次は埼玉県の162.5円であった。他方、最高値は長野県の178.5円だった。最も値上がりしたのは島根県(前週比1.6円高)、横ばいは石川県など7県、最も値下がりしたのは佐賀県(同0.6円安)だった。

次回調査時(5/29)のガソリンの小売価格は、横ばいもしくは小幅な値動きが予想される。

(資源公表) [週動向]	今週 (5/22)	前週 (5/15)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー	168.1	167.8	▲ 0.3
	灯油	111.0	110.8	▲ 0.2
	軽油	148.1	147.9	▲ 0.2

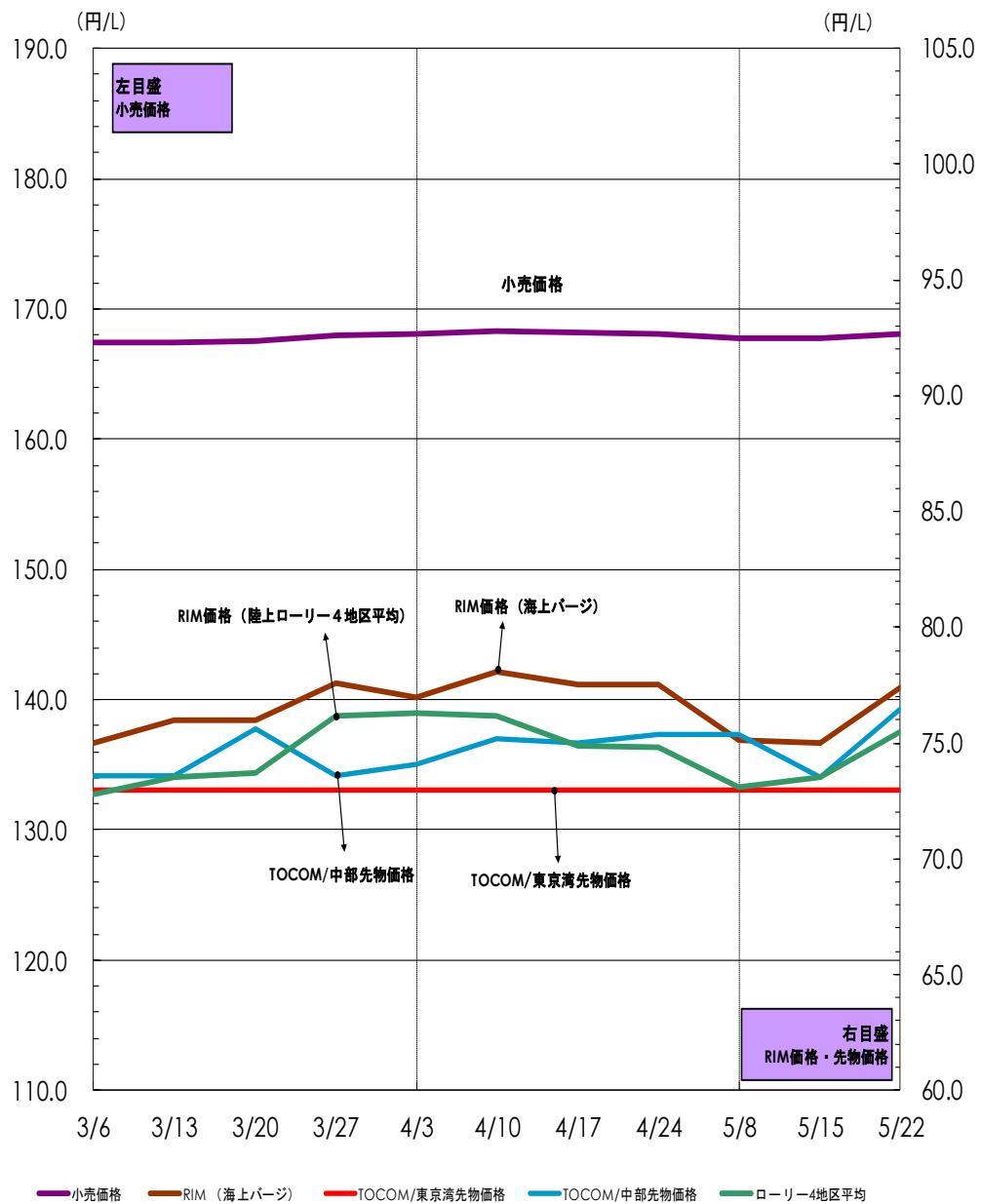
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/3/6 ~ 2023/5/22)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回（2023第8号）の公表は、6/2（金）14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate : 中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。